

平成 25 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	萌芽型
事業名称	人間発達科学専攻研究発表支援事業
取組代表者名 担当者名	米田俊彦 大森正博、小谷眞男、杉野勇、坂本佳鶴恵、岩壁茂、伊藤亜矢子、上原泉、 大森美香、刑部育子、浜口順子、富士原紀絵、浜野隆

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

本事業は、大学院学生の研究支援のモデルを構築することをねらいとしたもので、学内 GP の区分としては萌芽型ではあるが、2011 年度で終了したグローバル COE 事業における教育プログラム委員会による学会発表支援事業のノウハウを実質的に継承して実施した。

学会発表を行う大学院生への支援を行った。具体的な内容は次のとおりである。

1. 補助の対象は人間発達科学専攻博士後期課程在籍者（ただし 2011 年度以後の入学者に限る）とした。
2. 補助は、学会に発表するために要する往復の旅費および宿泊費（1 泊分）とした。ただし、上限を設定し、それを超える場合は上限の額とした。
3. 補助の金額の上限は、国外における発表は 1 件 10 万円、国内における発表は 1 件 4 万円とした（1 人の申請は 1 件）。
4. 補助対象者は、それまでの研究業績と予定している発表内容についての審査によって選考した。
5. 4 月に募集を行い、選考は 2 回行った（8 月までに開催される学会での発表については 4 月の募集の直後、9 月以降に開催される学会での発表については 8 月中旬に選考）。
6. 発表内容の審査には社会学・教育学・心理学について、それぞれ 3 人の教員があたることにした（自分の指導学生の審査に当たらないように審査員を配置）。補助対象者は、取組代表者と領域代表により候補を定め、専攻会議での審議により決定した。
補助とそれによる学会発表の実績は次のとおり。

No.	氏名 (入学年 度：指導教 員)	研究課題	参加学会	
			学会名（日程：会場）	題目（発表形式）
1	馬芳芳 (2010: 耳塚)	現代中国における親の教育戦略に関する研究	Third International Symposium on Urban Society: International Conference of Urban Child, Youth and Family Studies Under the Context of Globalization (H25. 5/23-24: 中国上海市: 華東師範大学社会発展学院)	家庭背景中影響課外補習与興味班的帰因差異分析 (中国語) (口頭)

2	合澤典子 (2010: 大森美 香)	生活リズムと 認知的評価が ストレス反応 に及ぼす影響	The 5th Asian Congress of Health Psychology (H25. 8/22-24:韓国太田 市:Daejeon Convention Center)	Influences of daily rhythm and cognitive appraisal on stress response among Japanese adolescents (口頭)
3	橋本 萌 (2011: 米田)	1930年代小 学校児童の参 宮旅行につい て	教育史学会 (H25. 10/14:福岡県福岡 市:福岡大学)	東京府私立小学校の「関 西旅行」「参宮旅行」に 関する一考察 (口頭)
4	子浦 恵 (2011: 浜野)	ケニアの初等 教育における 教育格差	国際開発学会 (H25. 11/30-12/1:大 阪府吹田市:大阪大学コンベンショ ンセンター)	家庭背景が学業成績に 関する原因帰属と自己 効力感に与える影響ー ケニア・エルドレット市 を事例に (口頭)
5	南陽慶子 (2012: 浜口)	幼児の表現と 身体性にみる 保育における 造形遊び体験 の意義の検討	Hawaii International Conference on Education (H26. 1/5-8:米国ハワ イ州ホノルル市:Hilton Waikiki Beach Hotel)	The Acceptance and Development of Clay Activities in Early Childhood Education and Care in Japan. (ポスター)
6	児玉理紗 (2011: 浜口)	保育現場にお ける保育者の 語りの諸相の 検討	Hawaii International Conference on Education (H26. 1/5-8:米国ハワ イ州ホノルル市:Hilton Waikiki Beach Hotel)	The Adult Learning as a Reconstructing the Personal Experience: Interviews with “Personal-Research- Based Program” Participants in Japan. (ポスター)
7	麻生奈央 子 (2010: 坂元)	シンデレラ物 語との接触が 間接的勢力志 向に及ぼす効 果	Society of Personality and Social Psychology (SPSP) Annual meeting (H26. 2/13-16:米国テキサス州オー スティン市:The Austin Convention Center)	Cinderella effects on women' s romantic fantasy and the interests to find benefactor (ポスター)

上記7名の大学院生には、発表終了後、体験談を執筆してもらった。その体験談を集めた「成果報告(体験談)集」の冊子を作成し、人間発達科学専攻を担当する教員と2014年度の新生に配付、専攻に在籍する大学院生にはデータの状態で配付した。目次は次のとおり。

1. 研究発表支援プログラムの概要	1
2. 平成25年度採択者リスト	2
3. 成果報告(体験談)	3
<海外学会発表>	
① 馬 芳芳	4
② 合澤 典子	6
③ 児玉 理沙	9
④ 南陽 慶子	11
⑤ 麻生 奈央子	13
<国内学会発表>	
⑥ 橋本 萌	16
⑦ 子浦 恵	18
【資料編】	20
・平成25年度「研究発表支援」募集要項	21
・平成25年度「研究発表支援」申請書様式	23

大学院生が遠隔地で開催される学会に発表するための費用を補助するという本事業は、院生の研究の進展に対して直接的に大きく寄与する。また、経済面だけでなく、この補助の獲得のために、院生は発表の準備を早めることになり、また発表の前に評価を受けることから、発表の内容が充実したものになることが大いに期待される。

2. 今後、申請を予定している競争的資金

本経費は、外部の競争的資金等を獲得するための準備経費として助成しました。今後、競争的資金の申請を予定している場合は、資金名を記入してください。